

令和7年度 第2回

神奈川県 小売業および介護施設 +Safe 協議会を開催

～ 転倒や腰痛を未然に防ぐ、DXやAIを活用したフレイルやロコモチェック～

神奈川県労働局では、令和8年2月5日（木）に、神奈川県内で食品スーパーや総合スーパー等の小売業を展開し、安全衛生対策に積極的に取り組む企業、地方自治体の商業・保健福祉担当部署、地域の災害防止団体等の関係者および神奈川県内で介護施設等を展開し安全衛生対策に積極的な取り組みを行っている法人や地方自治体の介護又は健康増進担当部署、地域の社会福祉協議会などの担当者を構成員とした「神奈川県小売業および介護施設 + Safe 協議会」を開催しました。

本協議会は、各業界における労働災害防止に関する課題を共有し、安全衛生に対する意識の啓発と自主的な安全衛生活動の定着を図ること、さらに神奈川県労働局管内における安全衛生への機運醸成を推進することを目的として、定期的を開催しており、今回は通算8回目の開催となります。



横浜第二合同庁舎共用第1会議室にて

今回の協議会は、小売業および介護施設の現場で共通課題である「**転倒**」や「**腰痛**」などの**行動災害**の防止のために、第14次労働災害防止計画の重点対策の一つである「自発的に安全衛生対策に取り組むための意識啓発」の具体的な取組みの一つである「**DXの推進**」について、専門家を講師としてお招きし、セミナー方式で講義の中で、DXについて、職場で導入する上での人的メリットや現場における安全管理や健康づくり活動などの紹介を受けたものです。

主催者挨拶

冒頭、神奈川県労働局 荒木労働基準部長より「今日は、「令和7年度第2回神奈川小売業および介護施設+Safe協議会」にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本協議会は、第三次産業における労働災害防止を目的として、県内小売業および介護施設の皆さまと連携し、令和4年に発足しました。情報共有や実践的な取組を通じ、安全水準の向上を図っています。令和7年の労働災害発生状況は、小売業および社会福祉施設ともに減少傾向にあります。一方で、転倒や腰痛などの行動災害は依然として多く、引き続き重点的な対策が求められています。

今日は、株式会社AYUMI BIONICSより、AI測定アプリを活用した心身機能の測定や安全管理への活用についてご紹介いただきます。これらの取組が、皆さまの職場における安全衛生管理のさらなる充実につながることを期待しております。」と趣旨説明が行われました。



神奈川県労働局荒木労働基準部長の挨拶

労働局から報告、確認など

続いて、神奈川県労働局安全課および健康課の担当官より、配布資料を基に、全国および神奈川県内における労働災害発生状況について説明が行われました。全業種で前年比の労働災害は減少しており、小売業および社会福祉施設においても同様に減少傾向にあることが報告されました。

一方で、災害の内訳を見ると、「**転倒**」や「**腰痛**」などの**行動災害が依然として高い割合を占めている**状況が説明されました。あわせて、**本年4月には「高年齢労働者の労働災害防止の推進について」に係る改正労働安全衛生法が施行**されるとともに、高年齢者の労働災害防止のための指針（仮称）が公表される予定であることが紹介されました。

今後の労働災害防止対策においては、「フレイル」や「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」への対応が重要なキーワードとなることが強調され、これらの対策として、本日の特別講演で紹介されたAI測定を活用した安全衛生管理の取組が有用である旨の案内が行われました。



当局 安全課 産業安全専門官 および 健康課 監督官からの説明

特別講演および体験プログラム

講演

「その転倒災害、防げたかも？ スマホ一つではじめる体力点検AI」

株式会社AYUMI BIONICS 代表取締役 田脇裕太氏



特別講演では、「その転倒災害、防げたかも？ スマホ一つではじめる体力点検AI」をテーマに、改正法のポイントから最新の AI 活用事例まで幅広い内容が紹介されました。

冒頭、令和7年5月に公布された改正労働安全衛生法により、「高年齢者の特性に配慮した作業環境の改善や作業の管理」が本年4月から施行され、事業者の努力義務として位置付けられたことが説明されました。併せて、これまで**エイジフレンドリーガイドライン**で求められてきた**高年齢労働者への配慮が、今後さらに重要**となることが示されました。

続いて、労働災害防止対策におけるDX・AI活用の必要性について、DXやAIの基本的な考え方から、業種別の導入事例まで、初めての方にも理解しやすい説明が行われました。

中盤では、体力測定データから**現場に潜む労災リスク**をどのように**把握**できるかについて、具体的な分析例を用いて解説がありました。**AIを活用して心身機能を可視化する**システムの仕組みや、測定後の**自動分析による効果**などが紹介され、従来の測定方法が抱える課題と、**アプリによる効率化・ミスマッチ解消**の実例がわかりやすく示されました。

後半では、オンラインによるフォローアップ支援、従業員の行動変容を促す仕組み、身体機能の改善につながった具体的な事例など、実際の現場での活用イメージが紹介されました。

本講演を通じて、**行動災害**、とりわけ転倒災害の**防止**を進めるうえで、AIを活用した測定・管理ツールが有効であることが、具体的な事例を交えながら示されました。また、**改正労働安全衛生法に基づく高年齢労働者の安全対策を推進する**うえでも、これらのツールの活用が大きな支援となることがわかりやすく紹介されました。

体験プログラム 🧑🧑

「AYUMI Scan」

サポート：株式会社AYUMI BIONICS スタッフ

今回のセミナーでは、田脇氏の講演に続き、+Safe 協議会の構成員の皆様にも、AIアプリを活用した身体機能測定「AYUMI Scan」の体験プログラムを実施しました。参加者の皆様には、事前の問診結果およびアプリによる測定データを基に、自動生成されるフィードバックレポートについて、その場で説明を受けていただきました。

測定は、アプリをインストールしたカメラ付きタブレットを三脚に設置し、音声案内に従って問診に回答した後、指定された動作（スクワットや片足立ち）をカメラ前で行うことで実施します。1m×2m程度のスペースがあれば測定可能で、安全に行うために補助者の配置や堅固な椅子の準備が必要です。所要時間は2～3分、長くても5分程度と、短時間で実施できる点も特徴です。

当日は、セミナー開始前に児屋野労働局長にも測定をご体験いただきました。

局長は、ご自身の心身リスクが“見える化”される点や、自動測定・自動解析の精度、レポート内容について大変関心を示され、今後の行動災害、特に転倒災害防止に向けたツールとしての活用に期待を寄せています。



測定を体験される児屋野労働局長

神奈川県労働局では、今後も協議会で得られた効果的な労働災害防止対策を県内の小売業および介護施設の事業者等の皆様にも周知、展開を図ることにより労働災害防止に繋げていきたいと考えております。今後とも労働災害防止対策の推進にご理解とご協力をお願いいたします。

次回協議会の開催は、令和8年8月を予定しています。

本件問い合わせ先 神奈川県労働局 労働基準部 安全課（電話045-211-7352）

構成員（順不同）（ 当日都合により欠席者あり）

（法人・団体）

- ・オーケー株式会社 ・生活協同組合ユーコープ ・富士シティオ株式会社
- ・株式会社クリエイトエス・ディー ・相鉄ローゼン株式会社 ・株式会社小田原百貨店
- ・小田急商事株式会社 ・株式会社たまや ・株式会社やまか
- ・株式会社ビック・ライズ ・ヤオマサ株式会社 ・J A全農Aコープ株式会社
- ・株式会社 ツクイ ・社会福祉法人 同愛会 ・社会福祉法人 同塵会
- ・社会福祉法人 県央福祉会・社会福祉法人 伸こう福祉会
- ・社会福祉法人 若竹大寿会 ・社会福祉法人 いきいき福祉会
- ・社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会（経営者部会） ・社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
- ・公益財団法人 介護労働安定センター神奈川支部 ・公益社団法人 神奈川県理学療法士会
- ・中央労働災害防止協会
- ・神奈川産業保健総合支援センター
- ・一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会神奈川支部

（オブザーバー）

- ・ミドリ安全株式会社 ・ミドリ安全東横浜株式会社

（行政機関）

- ・神奈川県 産業労働局
- ・神奈川県 健康医療局
- ・神奈川県 福祉子どもみらい局
- ・横浜市 健康福祉局
- ・川崎市 健康福祉局
- ・相模原市 健康福祉局
- ・神奈川労働局 労働基準部 安全課および健康課（事務局）